「未来をひらく石川の子」の育成（第三年次）
－夢や希望を追い求め、共に価値観を高めながら自信を育む授業の創造－

石川町立石川小学校　主幹教諭　梅田　智史

1　研究の趣旨

本校の児童は、学習に進んで取り組み、友達と共に学習課題の解決に迫ることを好む傾向がある。しかし、授業を通して「できるようになった」という実感はあるものの、学習内容の定着は不十分な面がみられる。教師は、授業改善や学力向上への意識が高まってきており、現職教育等を通して授業改善や指導力向上を図っている。小学校学習指導要領（平成 29 年告示）に示されている内容を踏まえながら、児童が「よりよく学ぶ姿」「よりよく生きる姿」を目指し、各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け、実社会・実生活において活用しつつ、各教科等を越えた学習の基盤となる資質・能力を育みたいと考え、本研究を推進してきた。

そこで、本研究では、研究主題および副主題に迫る手立てを持った国語科、算数科、総合的な学習の時間、特別支援教育の授業研究を行う。このことにより、児童が「よりよく学ぶ姿」「よりよく生きる姿」を具現化できると考え、以下の仮説を設定した。

教師が児童一人一人の豊かな育ちを願い、深い愛情をもって授業を構想、実践、改善すれば、児童一人一人のよさや可能性を発揮し合い、友達や教師と共に価値観を高めながら、自信が育まれ、「未来をひらく石川の子」の姿を具現できるであろう。

2　研究の概要

国語科、算数科、総合的な学習の時間、特別支援教育の各部会を編成し、それぞれが「① 求める児童の姿」「② めざす授業像」を設定し、研究授業ごとに「手立て１　『出合い』魅力ある教材『人・もの・こと』との出合わせ方の工夫」「手立て２　『深め合い』児童の思考や表現を共有・焦点化・吟味する活動の工夫」「手立て３　『振り返り』学んだことを確かにし、自己の成長や共に学んだよさを実感させる活動の工夫」に対する具体的な手立てをもって授業研究を行った。

第三年次は「探究的な活動により学びを問い続ける態度の育成」を目指し、「学びを問い続ける」「納得解・最適解に迫るための学び」に重点的に取り組んできた。

3　成果と今後の課題

(1) 研究の成果

○　課題や教材の提示を工夫したことで、学習内容を焦点化したり、課題解決の見通しをもたせたりすることができた。

○　掲示物やノート等、前時までの学びを生かした導入によって、学びの連続性を意識させることができた。

○　個別、ペア、グループ、全体など学習形態を工夫して考えを交流したことで、多様な考えにふれて考えを深めたり統合したりすることができた。

○　児童の考えをつないだり、考えの根拠を問いかけたりしたことで、課題に対するより深い思考を児童に促すとともに、教師の話し合い活動におけるコーディネート力の向上を図ることができた。

○　発達段階に応じた表現による振り返りや視点をもたせた振り返りにより、何を学んだかがより具体的なものとなり、学習内容の定着と学習意欲の維持、向上を図ることができた。

(2) 今後の課題

○　自分事として学ぶための手立てとよりよい活動への意欲付けと活動への必然性のもたせ方

○　伝え合う、深め合うなど、目的や視点をもった話し合い活動への取り組ませ方と深い学びにつながる児童の見取りや話し合い活動のコーディネートの在り方

○　適用問題や振り返りで学習内容の定着を実感し、学び続ける意欲を高める時間の確保

○　児童の実態に応じた単元指導計画のマネジメント